

2.2第1回映画研究会の報告

昨年11月度のニモクサロンにおいて提案があり小平稻門会の18番目の同好会として「映画研究会=映研」が誕生いたしました。
各自の好みのジャンルが異なることで鑑賞するタイトルの選択が難しく、また何人の参加者を募れるか不安がありましたが、
会が誕生したからにはスタートせねばと第1回目の鑑賞会を開催いたしました。
幸いにして今回は10人の参加をいただき感謝しているところです。



- ・日 時：2月2日(月)11:30～14:45
- ・上映館：新宿パルト9(新宿3丁目イーストビル9階)
- ・タイトル：『[KANO]1931海の向こうの甲子園』

日本が台湾統治時代に台湾から1931年の全国中等学校野球大会(甲子園大会)に出場した嘉義農林学校野球部の実話を基にした日台合作映画で台湾では異例の大ヒットした作品です。

『あらすじ』1929年、嘉義農林学校の弱小野球部に日本人の近藤兵太郎が請われて監督になり、その指導のもと猛練習の結果1931年に台湾代表チームとして甲子園全国大会に出場して決勝戦まで進出しました。その一球たりとも諦めないプレイが観衆の心をつかみ、決勝戦では中京商業に負けはしたものとの健闘ぶりには当時の日本国民も深い感銘を受けた様子が映されています。

【嘉義農林学校のエースで4番バッターの吳明捷選手は卒業後に早稲田大学に入学し野球部に入部しました。そして在学中は主力バッターとして東京6大学で2回の優勝に貢献し、ホームラン7本を打ち長嶋茂雄氏が1957年に8本打つまでは東京6大学のホームラン記録保持者でした】

・参加者(敬称略):10名 ・井垣 ・石井(伸二)・伊藤(徹)・小川 ・国友 ・栗原 ・滝沢 ・中村 ・馬場 ・鈴木

・鑑賞後の懇親会 15:00～16:30

参加者全員で上映館の8階にある銀座アスターにて遅い昼食を摂りながら鑑賞後の感想を述べあいました。

近藤監督が家族一同で赴任して甲子園を目指すという強い信念を曲げない指導、またいろんな問題を抱えながらも監督についてきた野球部員の忍耐力、甲子園の決勝戦でエースがハンデキャップを負いながらの戦いぶりなどに鑑賞会参加者の皆さんも感銘した様子でした。また映画の最後のほうで吳明捷選手が早稲田大学に入学したとの字幕が出たこともあり吳明捷選手の話題も盛んでした。

16時30に懇親会はお開きとなりました。



《今後の問題》

早稲田松竹、飯田橋ギンレイ、岩波ホール以外の映画館は上映スケジュール(タイトル、上映日時)が決まるのが上映前週の木曜日か金曜日です。またチケット予約は鑑賞日二日前の午前12時からでタイトル、日時を決めてチケット入手でない可能性もあります。映研でのタイトルの選択、日時の決め方をどうしたらよいかの問題があります。

この件に関して皆さんのご意見を伺いたいです。

文 & 写真 鈴木(昭)